

視察・研修報告書

視察研修先	大野城市
日 時	2024年4月10日（水）
場 所	大野城市 心のふるさと館
テーマ	住民起点の議会をつくろう
対応者 （講師）	LM 推進ネットワーク九州 代表 神吉 信之
<b>概 要</b>	
<p>1. 議員・議会のイメージは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の視点でみる議会のイメージと議員の視点でみる議会のイメージが乖離している。</li> <li>・議員の「顔」は見えるが、議会の「顔」は見えていない。市民の議会への関心度が低く、46.7%が地方議会の役割を知らないと回答している。関心がない理由に何をしているのかわからない、生活にあまり関係がないと思われる。</li> </ul> <p>2. 地方議会は機能しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政策提案・立案機能では、条例制定は首長 3000 に対し、議会・議員は 96 である。</li> <li>・行政のチェック機能では、98.8%は首長提案をそのまま可決している。</li> <li>・地方議会が地方政治の中で役割を果たしていないと回答が約 6 割にのぼる。</li> <li>・市民と議員との意識のギャップこそが問題である。</li> </ul> <p>3. どんな議会がいい議会か 議会の存在意義とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会は合議制代表機関であり、民意に耳を傾けながら結論を出すことができる本当の民主主義である。それが議会の存在意義ではないか。</li> <li>・議会の使命は議決以上に討論過程を通して「論点」「争点」を発見公開することを重視するべき。</li> </ul> <p>4. 先進的な議会と何がどう違うか</p> <p>【先進的な議会の紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民対話数年間日本一の兵庫県西脇市議会</li> <li>・議会としての政策サイクルがある福島県会津若松市議会</li> <li>・様々な市民の意見収集・主権者教育の岐阜県可児市議会</li> <li>・若者の語る力と大人の聴く力を掛け合わせた若者市議会 愛知県新城市議会</li> <li>・フリースピーチ制度を導入している愛知県犬山市議会</li> <li>・大学との連携、議員間討議などで政策立案能力を高める滋賀県大津市議会</li> <li>・議会の DX 化（オンライン視察研修） 茨城県取手市議会など</li> </ul> <p>5. 住民起点の議会とはどうつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有権者は議会に無関心である。</li> </ul>	

- ・正解を誰も持っていない問題に取り組むためには対話が必要。
- ・対話をする際の4つの注意点
- ①互いに尊重しあうこと
- ②個人の価値観を否定しないこと
- ③自分を客観的に見ること（外在化）
- ④社会的な価値観と個人的な価値観を切り離して考えること

#### 所 感

講義の後は参加者を半数にわけて「これからのまちづくりについて」のワールドカフェがあった。それぞれが考える未来の大野城市について語ることで、各議員の考えやそれに対する意見の集約など対話の大切さを学んだ。定期的に議会でもワールドカフェを実施することでチーム議会がつくられていくと考える。

作成者 松田美由紀